

No.675 (改題635号)
2025年
10月22日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所：新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三蔵工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご 92 碑 物語

酒のおいしい季節を迎え、灘五郷界隈は酒蔵めぐりを楽しむ老若男女で賑わっている。

灘の酒造専用水道の碑

(神戸市東灘区西岡本)

室町時代に始まったとされる酒造りだが、灘における酒造りの勃興期は「宮水」に象徴される良質の水が確保できたこと。さらに、住吉川に代表される水車を利用した精米技術の発展など、好条件がそろっていたこともあり、酒造りが盛んになり、神戸市灘区から西宮にかけての西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷の、いわゆる灘五郷が形成された。さらに、灘は船積



「宮水」に象徴される良質の水が確保できる灘五郷ならではの酒造専用水道の完成を記念した碑

享保年間(1736年)までの約60年間とされる。この時期から、酒米の産地が近かったことや「宮水」に象徴される良質の水が確保できたこと。さらに、住吉川に代表される水車を利用した精米技術の発展など、好条件がそろっていたこともあり、酒造りが盛んになり、神戸市灘区から西宮にかけての西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷の、いわゆる灘五郷が形成された。さらに、灘は船積

5日の日曜日には「ギャラリートーク」として、全国で活動している高校生平和大使の取り組みの報告が行われた。報告を行ったのは、第25代兵庫県高校生平和大使で現在は神戸女学院大学2年生の松尾美雨さんと、広島で同じく高校生平和大使を務めた関西学院大学1年生の新藤莉々依さんの2人。

「核兵器廃絶」の声を拡げる 北区で「原爆と人間」写真展



9回目を迎えた「北区写真展」は被爆80年などに因んで「核兵器廃絶」をテーマに開かれた＝10月5日、神戸市北区・すずらんホール

松尾さんからは、広島と長崎での研修や東京での国会議員との面談、第5日(渡辺修二)

高校生平和大使の報告も

10月3日～7日の5日間、神戸市北区鈴蘭台のベルスト3階のすずらんホールで「原爆と人間」写真展が催された。北区では、憲法を生かす北区の会を主体とした実行委員会が、毎年、写真展を開催してきた。9回目となる今年は、被爆80年と昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞に因んで「核兵器廃絶」をテーマとした写真展となった。ヒロシマ、ナガサキの被爆の様子を伝える30枚の写真や絵が会場に展示され、買い物客や電車の利用客などが立ち寄り、熱心に写真を見る姿が見られた。

五福竜丸の見学など、平和大使として様々な学習を重ねたことや、ジュネーブの国連軍縮会議に参加して世界の人々と交流した報告が行われた。平和は、軍事的なことだけでなく、人権や貧困、差別からも見ていく必要があることを学んだという。高校生平和大使として皆さんの貴重な体験をすることで核廃絶への思いをさらに強くし、大学生になった今も活動を続けていきたいと力強く締めくくった。

イスラエルはジェノサイドをやめろ ガザの即時停戦の実現を 市民デモHYOGOが街頭行動

10・7 三宮



市民デモHYOGOが呼びかけたスタンディングには若い人や外国人の飛び入り参加もあった＝10月7日、神戸マルイ前

パレスチナ・ガザ地区での戦闘が始まってからまる2年が経つ10月7日夜、神戸では市民デモHYOGOが「ガザの即時停戦」を「イスラエルはジェノサイドをやめろ」などアピールするスタンディング行動を呼びかけ、約30人が参加して三宮の神戸マルイ前で1時間半にわたって宣伝行動を行った。



2人の高校生平和大使OPから高校生平和大使の活動報告が行われたギャラリートーク＝10月5日、神戸市北区・すずらんホール

水脈 先日、「共生と平和のジヤーナリス」ト・内橋克人の目指した地平」と題したシンポジウムが神戸市内で開かれた。4年前に亡くなった経済評論家・ジヤナリスの内橋克人さんの功績を顕彰するもので会場はほぼ熟年者で満席だった。基調講演者はNHK「クロソアアップ現代」の元キャスター・国谷裕子さん。内橋さんは「クロソア」に50回近く出演し、国谷さんと親交が深かった。番組が始まった1993年は、「失われた30年」と言われるようにバブルが崩壊し、規制緩和は様々な問題を生んだ。企業倒産や非正規労働者を増やし続けた。番組の打ち合わせでも内橋さんは口を開くと熱く語り続け、時には涙を浮かべ、人を物のように扱う社会を批判し、人を豊かにするための経済で人らしく生きる社会をあくまで追求すべきと主張し続けた、と国谷さんは振り返った。内橋さんは神戸市須磨区生まれで神戸空襲を体験、戦後60年に「神戸空襲を記録する会」で講演した。阪神・淡路大震災では「被災者等生活再建支援法」を求めた時は、「資本主義の国で自然災害に個人補償はあり得ない」と発言した経済学者や為政者を非難し、被災者と共に国会行動にも参加した。著書も多く、お薦めしたい。

寄稿

住民の声を全く無視した

「播磨臨海地域道路」計画

計画撤回へ5地区で住民が運動

し、国への陳情と地元への広報を開始した。しかし、大規模開発優先の土建国家政策に対する国民の批判と計画キャンセルの不安が、内外の観光客の誘致や南海トラフ地震等の防災対策を挙げているが、いずれも取ってつけない理由がある。

それがアベノミクスの大規模公共事業を推進する「国土強靱化」と「地方創生」の掛け声で計画が復活。兵庫県も関係市町も無批判にこれに便乗した。国土交通省は「優先区域絞り込み」手続きを経て、2020年に近畿地方小委員会では複数のルート案から「内陸・加古川ルート」が選定され、複数のルート案からの絞り込みは該当の市町に委ねられ、その結果が2023年に公表された。

住民の声を全く無視して計画を推進

播磨臨海部に自動車専用道路建設計画
第二神明道路・明石西ICから西へ広畑までの32km、播磨地方の臨海部に「播磨臨海地域道路」という名の自動車専用道路を建設する計画が着々と進行している。

計画によれば、片側2車線、高架、有料で、2038年頃の開通を目指すという。国道2号線の姫路・加古川バイパス及び第二神明道路における交通渋滞を緩和し、臨海部の産業の流通を良くし経済発展を促すことが主たる理由としている。2001年にこの地域の行政・企業・財界が一体となって協議会を設立

ていつているようである。当局は自動車道建設の目的と効果として、交通渋滞の緩和・交通事故対策と地域産業の活性化のほかに、内外の観光客の誘致や南海トラフ地震等の防災対策を挙げているが、いずれも取ってつけない理由がある。

建設費用は当初の5900億円からいまや1兆円を超えようと思われ。こんな巨費を投じる、費用対効果のない税金の無駄遣いの計画である。この計画に対し、ルート上の稲美、加古川、高砂、的形、姫路の5地区に道路計画に反対する住民の会が結成され、合同で計画の撤回を求め署名活動や街宣活動などが行われている。

住宅密集地や中学校を切り裂くルート

ルートを試みると図のように、明石西ICから北に上がり、静かな田園の広がる稲美町を横切り、南下して加古川市別府町の住宅地を通る。その先、加古川の河口に新たに橋を架け、高砂市に入り中学校を縦断し、隣接の住宅密集地を切り裂き、松並木の美しい都市公園を全部潰し、工場の敷地は避けていびつにカーブして西へ。姫路市に入っていく形地区で山にトンネルを穿ち、貴重生物の棲む里山を削るなど自然を破

壊して姫路市広畑へと繋がる。

高度成長期に造られた道路・橋・上下水道などのインフラの老朽化対策が急務の今、時代錯誤も甚だしい計画だと言わざるを得ない。

建設費用は当初の5900億円からいまや1兆円を超えようと思われ。こんな巨費を投じる、費用対効果のない税金の無駄遣いの計画である。この計画に対し、ルート上の稲美、加古川、高砂、的形、姫路の5地区に道路計画に反対する住民の会が結成され、合同で計画の撤回を求め署名活動や街宣活動などが行われている。

ルートを試みると図のように、明石西ICから北に上がり、静かな田園の広がる稲美町を横切り、南下して加古川市別府町の住宅地を通る。その先、加古川の河口に新たに橋を架け、高砂市に入り中学校を縦断し、隣接の住宅密集地を切り裂き、松並木の美しい都市公園を全部潰し、工場の敷地は避けていびつにカーブして西へ。姫路市に入っていく形地区で山にトンネルを穿ち、貴重生物の棲む里山を削るなど自然を破



「播磨臨海道路」計画のルート図

ハラスメント相談へセミナー実施

ひょうご労安センターなどが主催

ひょうご労働安全衛生センターなどが主催したハラスメント相談員向けのセミナーが10月1日、神戸市内で開かれ、関係団体から参加した約30人が、「ハラスメント相談にどう向き合うのか」をテーマにした高尾奈々弁護士（大阪労働者弁護士）の講演に学んだ。

高尾さんは冒頭、「ハラスメントは人権侵害である」と強調。相談現場で迷わないためのポイントと課題の整理として、パワハラ、カスターマーの両

ハラスメントについて詳細な資料を基に対象、定義、違法・合法の判断基準、事例検討、予防に向けて労働組合が出来ることなどを説明した。

参加者からは、「部下からのパワハラをどう考えたらよいのか」「パワハラをめぐって会社はそれを認めるべきでないが、認めることで何がかわるのか」「パワハラはフリーランスも対象となるのか」「パワハラは受ける労働者によって感じ方が違う。平均的な労働者の感じ方

一斉の電話相談窓口「メンタル労災・ハラスメントホットライン」を設けた。県内では、ひょうご労働安全衛生センター、ひょうごユニオン、ひょうご働く人の相談室が相談に対応した。

「ハラスメント相談にどう向き合うのか」をテーマに高尾奈々弁護士が講演＝10月1日、神戸市中央区



秋の国会で再審法の改正を 10・4に兵庫県民集会

再審法改正をめざす兵庫県民プロジェクトが呼びかけ

「秋の国会で再審法改正を」と、弁護士や大学教授らによる「再審法改正をめざす兵庫県民プロジェクト」が呼びかけた

集会（もう待てない！冤罪犠牲者救済 再審法改正をめざす兵庫県民集会VOL.2）が10月4日、神戸市中央区の県弁護士会館で開かれ、多くの人が参加した。

再審をめぐるのは、再審請求審の手続きや進行についての具体的なルールがほとんどなく、長期化をはじめ高すぎる救済へのハードルが問題とされてきたが、昨年、死刑確定から44年かかって袴田巖さんが再審無罪確定となったことなどをきっかけに、70年以上手つかずの法改正を求める声

集会では、映画「獄友」撮影カメラマンの池田俊己さんが「改正へは市民の力が何よりも必要」と主催者挨拶。事務局から



冤罪犠牲者の救済と再審法の改正をめざす弁護士や団体からの報告が相次いだ県民集会＝10月4日、神戸市中央区

また、県下の取り組みとして、神戸買店事件再審弁護団、姫路郵便局事件再審弁護団、狭山事件再審請求支援の部落解放同盟兵庫県連、国民救済会兵庫県本部などから報告があった。（岡崎彩子）

派遣、請負など直接雇用でない労働者問題

現に、今回「出禁」を通告された派遣労働者はすでに1年半以上そこで

働いており、問題の安全具を装着したのは、この日だけではない。

また、このソフトタイ

プは、ヤマトが社員に「推奨」しているもので

もある。

ヤマトに対して「出禁」問題の事実確認を行ったところ、ヤマトからは

「社員が行った行為は誤りであり、指導した」

「当社に「出禁」を通告された派遣労働者があらためて派遣されることに何の問題もない」との回答がされている。当然のことである。

こうしたことから、早期解決ができるのではないかと期待していたが、今度は派遣元が勝手に契約を解除し、仕事の紹介もせず、兵糧攻めをしてきたのだ。チャ

ーは、「誰をヤマトに派遣するかは、派遣元に権利がある」とうそぶき、交渉は決裂した。

ユニオンとして、チャージに対して解雇（登録抹消）による損害補償とヤマトへの再派遣を求めて闘うことを決定した。

派遣や請負、ギグワークなど、直接雇用でない働き方が広がる中で、こうした労働者に勇気を与える闘いにしたい。

塚原久雄（武庫川ユニオン書記長）

地域ユニオン
あちこちあれこれ
(461)

おんなの目

この夏の猛暑は本当に酷いものでしたが、高齢者が、障がい者の在宅介護を支える訪問介護員にとっても、

本当に過酷なものでした。自転車や徒歩での移動に加え、利用者宅では感染予防のためマスク着用が必要でエアコンの効いていない台所での調理やトイレでの掃除、風呂場での入浴介助等、想像してみてください。

「ケア社会をつくる会」

で取り組んだヘルパーさんを対象にしたアンケートによると熱中症のような症状、だるさ、頭痛、めまいの他、嘔吐や意識障害等の報告もあった、とのこと。ヘルパーさん自身も高齢化している中で、今夏の暑さで退職を考えた人が3割あったのも頷けます。「利用者のため」と踏み止まっている60歳、70歳のヘルパーさんの使命感にこの国の在宅介護は頼っていてよいのでしょうか!?

今年6月1日から施行された改正労働安全衛生規則では、労働者を雇用するすべての事業者に対して、職場の熱中症対策が罰則付きで義務化されました。けれど、小規模の訪問介護事業所では注意を促す程度で、対策はヘルパー個人に委ねられているのが現状です。せめて保冷剤や飲料等を支給すべきですが、昨年の訪問介護の介護報酬切り

下げにより一層経営が厳しくなっており、それしかないません。介護保険の保険者である行政は支援する責任があります。そして昨年、私たち「安心と笑顔の社会保障ネットワーク」(略称:安心ネット)では地域ユニオンや熟年者ユニオンと連携して、介護保険に関するアンケートを持って、神戸市内の訪問介護事業

廃業していると思われる事業所を見つたり、神戸市への陳情や申し入れに感謝されたり、いろいろな情報が入ってくるようになりました。

なかでも驚いたのは、病院や老健施設、デイケア等を運営している大きな法人が経営コンサルタント会社に乗っ取られ、介護や地域の高齢者の生活のことなどを考えず、経営の数字だけで判断され、訪問介護事業所を閉じることになり、サービス提供責任者が利用者やヘルパーさんの引き取り先を探す後始末をさせられている、という現実です。その前任者はメンタルを病んで退職された、とのことでした。

また、神戸市内のある区では地域の介護の拠点、あんしんすこやかセンターのケアマネさんの過労自殺未遂があったそうです。

私たち「安心ネット」は11月1日に総会を開くとともに、ヘルパーさんケアマネさん、介護を経験されたご家族等の生の声を聞いて、話し合う場を企画しています。そして、これらの声を行政にぶつけていく予定です。ぜひ多くの方のご参加をお願いします。

特に垂水のユニオンではその後も2カ月に1回介護交流会を開き、実態の交流やメンタルケアの講習等を行ったり、その報告等を載せた交流紙を発行し、区内の事業所に配布を続けています。その活動の中で、明らかに

酷暑 訪問介護員の悲鳴



菊地真千子 (安心ネット) 代表

『あなたはどこで死にたいですか?』

小島美里著／岩波書店／2300円(税込)

「あなたはどこで死にたいですか?」と聞かれてどう答えますか。5年ぐらいまではそんなに深く考えることがなかった言葉だが、

ここ1、2年の間に一緒に歩いてきた仲間が亡くなり、この言葉が実感として「私はどこで死にたいんだろう」と考えるようになった。

第1章と第2章は、年若い認知症になっても安心して生きるには何が必要か、安心して最期を迎えるにはどうしたらいいかを複数の事例を挙げて説明してもらえ。多くの人が「家で最期を迎えたい」と言っているが、そう簡単にはいかない。介護保険が始まる時、これからは本人と事業者が契約を結び、どのようなサービスを受けるかは本人が決める「選択の自由」が謳われた。ところが、さまざまな制約によって否応なく在宅か施設か、

どちらかしか選べない状況で、それを「選択」ということはできない。

第3章は、介護サービスが抑制され続けていることに関して。同じ「社会保険制度」なのに、医療保険は「要医療認定」など受けなくても医療を使える。「要医療認定」はないのに、なぜ「要介護認定」があるのか。介護に

認知症でも自分らしく生きられる社会へ(副題)

卒業はない。たとえ一旦調子が上がっても、必ず下がる。老衰も、死も避けられないものだ。生活援助の回数制限が認知症の状態を悪化させたり、ヘルパーのやりがい奪ったりしていることに制度設計をする人たちは気づいているのだろうか。私たちが高い介護保険料を負担し続けているのは、介護サービスを受けるため。「仕方ない」と諦める必要はない。第4章は、介護保険制度の問題点が私たちの将来にどう影響するかが述べられる。介護

保険は20年で前進せずに後退してしまっている。小さな事業所がなくなれば、入居費用の高い施設に入ったり、自費サービスを利用したりできるお金のある人たちがだけが介護を受けられて、そうでない人たちは打ち捨てられてしまいかもしれない。

第5章では、これからどうしていくかを考えていく道筋があげられている。介護保険制度は「介護の社会化」「自己決定」利用者本位「自立支援」を掲げてスタートした。介護

保険法第1章第1条に「その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができる」とある通り、要介護状態になった人、ヨロヨロしているも本人が望む自立した生活を営めるようにすることを意味している。介護サービスの使い勝手をよくするため、①個人加入の制度であることをはっきりさせる、②利用料に所得階層を持ち込まない、③認知症仕様にする、④独居仕様にする、⑤医療系サービスを医療保険に戻す、⑥「介護予防」や「地

域作り」を介護保険財源から一般財源に戻す、⑦加算を最低限にとどめ、基本報酬をあげる、⑧利用料の減額、無料化を進める、が提起されている。

すべての人が必要なサービスを利用できる社会に向けて、お互いに反目し合い疑いの目を向け合う社会よりも、信頼し合える社会、助け合える社会の方がいいと誰もが思っているのに、そうならないのは、もしかしたら制度のせいかもしれない。だとしたら、その制度を変えればいいのか。いや、変えなければいけない。制度は変えられる。だから諦めない、と書かれている。諦めないで、私たちの力で信頼できる政府を作り、安心して死ねる社会にしたい。諦めさえしなければ、きっと制度や社会は変えられる。「あなたはどこで死にたいか」で結ばれている。

小島さんは本の箇所箇所に「本当にその通り」と納得できる言葉を載せてくれている。この本を読み、私は「どこで死んでもいいけれど、最後まで自分らしく、人間らしく生きたい」と思った。

(松永浩美)

(松永浩美)

ベスト・キッド・レジエNZ

本作は、日本では1985年に公開された「ベスト・キッド」から始まるシリーズ作品であり、

1994年には「ベスト・キッド4」2作が公開され、いったん休止となったが、2010年にはリメイク版が製作されるなど永く愛されている映画である。今年(20

25年)公開の本作はシリーズ最新作である

本作の公開には、製作総指揮に名を連ねる、ダニエル・ラ alun として

も出演しているラルフ・マッチオの役割が大きい。

彼は「長年、僕が演じた『ベスト・キッド』シリーズのダニエルというキャラクターを守って慎重に取り組んできた、今回

共演が実現したジャッキー・チェンには芸術家、エンターティナーとして

尊敬の念を抱いている」と語るなど、本作への彼の熱意が感じられる作品

となっている。

物語は、中国・北京から始まる。オーディションから選ばれた新人ベ

ン・ウォンが演じる高校生リーは、幼い頃からカンフーの師匠ミスター・

ハン(ジャッキー・チェン)から指導を受けていた。母(ミンナ・ウェ

ン)はハンの姪で医師。ニューヨークの病院へ勤

めることになり、リーは母とアメリカへ行くことになる。

ニューヨークでの最初の夜、夕食を求めて入ったピザ店でミア(セイデ

イ・スタンリー)と出会い、その父親ウィクター(ジュシユア・ジャクソン)と会うことになり、

ウィクターがある男から借金をして悪い取り立てに苦しんでいることを

告げられる。

リーは、ウィクターが以前ボクシングの王者であったことを知り、借金をしている男から近く開催されるボクシング大会で優勝すれば借金は帳消



しにすると言われて、その大会に出るためにリーが中国で習っていたカンフーを基にしたトレーニング法を教えてほしいと頼まれ、教えることになる。

そんなリーはウィクターの娘と恋におちる。しかし、ミアがかつて付き合っていた元彼コナー(アラミス・ナイト)からミアとの仲を嫉妬され、リーはニューヨークの様々な場所での「ファイブ・ボローズ・トーナメント」で勝負することになる。

一方、大会に出場したウィクターは、勝利することではできず病院へ運ばれるが、リーは、過去にリーの兄が暴漢に襲われた時、助けることができ

でいく……。

本作の魅力は何と言ってもジャッキー・チェンである。まさに「レジエ

ンド」としてのアクションを伝える姿には温かみと強さがある。ジャッキーファンならずとも劇場で観てほしい映画である。

(シネマ倫)

監督IIヨナサン・エントウィッスル/20

25年/米/94分

シネマランド

1985年初作のシリーズの最新作